



山形県酒田市飛島における *Calliope tschebaiewi* の日本初記録

築川堅治*・星野実

日本野鳥の会山形県支部

はじめに

Calliope tschebaiewi はスズメ目ヒタキ科に属する全長約 15cm の鳥で、中国やチベットで繁殖し、ネパール東部やインド北東部、中国南西部、ミャンマーなどで越冬する (Clement & Rose 2015)。従来は *C. pectoralis* の中に 4 亜種が認められていた (Clement & Rose 2015)。しかし近年は、そのうちの *C. p. tschebaiewi* が独立種として扱われるようになった (Gill et al. 2020)。本稿においても *C. tschebaiewi* を独立種として扱う。

C. pectoralis には *C. p. confusa*, *C. p. ballioni* という亜種も含まれるが、白い顎線を持つのは、頬が黒っぽい *C. pectoralis* のいずれの亜種とも形態から区別可能である (Clement & Rose 2015)。

筆者らは、本来の分布地から離れた山形県酒田市飛島において、*C. tschebaiewi* 1 個体を確認した。飛島は山形県酒田市の北西約 39 km の日本海上に位置している台地状の島である。春期と秋期の渡りの時期には、主にスズメ目の小鳥類を中心とした数多くの鳥が一時的に滞在し、中国東部や朝鮮半島、沿海地方で繁殖する鳥類がしばしば出現している。

この本記録が本種の日本初記録と思われるので、ここに正式に報告する (なお、本記録は亀谷・築川 2021 の写真と同一個体であるが、詳細な検討過程を付したものである)。

観察日時、場所及び観察状況

本個体が観察されたのは、2017 年 5 月 18 日の早朝、飛島南部の畑である (39° 11'16"N, 139° 32'38"E)。同日午前 5 時ごろ、筆者らは、飛島の南部にある通称「2 の畑」で、ノゴマ *C. calliope* の雄のように喉は赤いが、体の上面は濃い灰色で胸が幅広く黒い鳥を確認し、観察、撮影を行った。観察は 10 倍の双眼鏡で行い、焦点距離 80–400 mm のズームレンズを取り付けた一眼レフデジタルカメラで撮影した。筆者らは島を南北に貫く農免道路から観察撮影を行い、本個体までの距離は 20 m ほどであった。時折、藪に隠れはしたが、草刈りがされた開放面に比較的良好に出ていて、容易に観察できた。刈られた草の上でヨーロッパコマドリ属 *Erithacus*、オガワコマドリ属 *Luscinia*、ノゴマ属 *Calliope*、コマドリ属 *Larvivora* の種で見られるように、時折、尾羽を上下に振りながら探餌を繰り返していた (高野 2015)。他に筆者らの知り合いを含めた数名が観察撮影でき、最終確認は午前 7 時 15 分ごろであったが、この間、鳴き声を発することはなかった。その後は、範囲を広げて探すも見当たらず、その日以降は再発見することはできなかった。

観察環境

本個体が観察されたのは通称 2 の畑と呼ばれる耕作地の一部で、ネギ *Allium fistulosum* などを栽培している畑の縁である。縁にはオオイタド

2026 年 3 月 19 日 受理

キーワード：ムナグロノゴマ、日本初記録、飛島

*: tobishimanty87@nifty.com



図 1a-c. 山形県酒田市飛島で観察されたムナグロノゴマ。(2017年5月18日, 撮影: 星野実)

Fig.1a-c. Chinese Rubythroat *Calliope tschebaiewi* observed at Tobishima Island on 18 May 2017. (Photographed by Minoru Hoshino).

り *Polygonum sachalinense* やススキ *Miscanthus sinensis* を主とした草本類とエノキ *Celtis sinensis* とマルバグミ *Elaeagnus macrophylla* などの樹木から成り, 一部は刈り払われて畳一枚ほどの開放面ができていた。本個体は, その開放面で観察された。

形態的特徴と種の同定

本個体は, 比較的長い脚を持ち, 地上で行動し, 時折, 尾羽を上下させる行動からヨーロッパコマドリ属 *Erithacus*, オガワコマドリ属 *Luscinia*, ノゴマ属 *Calliope*, コマドリ属 *Larvivora* の1種と考えられた(高野 2015)。

大きさは, ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus* とほぼ同じか, やや大きく見えた。本個体は喉が赤く, 眉斑と顎線が白色であった。ヨーロッパコマドリ属 *Erithacus*, オガワコマドリ属 *Luscinia*, ノゴマ属 *Calliope*, コマドリ属 *Larvivora* のうち本個体と同様に, 喉が赤く, 眉斑と顎線が白色である日本産鳥類としてノゴマ *C. calliope* の雄があるが, 体の上面が濃い灰色で胸が幅広く黒いことから一致しない(真木ほか 2014)。ノゴマの色素異常による黒化も考えられたが, 胸に黒帯があり著しく太いこと, 何よりも尾羽の基部と外側尾羽先端に白斑があるためノゴマとは大きく異なる(図 1a, 1b,

1c) (真木ほか 2014). また, 世界のノゴマ属のうち, 体の上面が黒っぽく, 喉から胸が赤色系なのはムネアカノゴマ *C. pectardens* と *C. pectoralis*, *C. tschebaiewi* のいずれも雄である. このうち, ムネアカノゴマの雄は *C. tschebaiewi* のように眉斑と顎線は白色ではなく, 成鳥では喉から腹までが濃いオレンジ色であり, 第一回夏羽では喉から胸が淡いオレンジ色であるため一致しない (Clement & Rose, 2015). *C. pectoralis* は本個体同様に喉が赤色で眉斑は白色であり, 尾羽の基部と外側尾羽の先端が白色ではあるが, 白色の顎線はない. また, 喉の赤色の範囲は *C. tschebaiewi* では上胸にまで達し広いが, *C. pectoralis* では上胸にまで達せず狭い (Clement & Rose 2015). これらすべての点を踏まえのことから, 本個体は *C. tschebaiewi* の雄と判断した.

考察

本種には足環がなく, 飼育によって生じた風切や尾羽の摩耗や損傷, 嘴先端の伸長, 足指のこぶなどは見られず, 籠脱けの可能性は低い. 加えて, 春の渡り時期であり渡り性を持つため何らかの気象要因で渡り途中の個体が飛島まで迷行してきたと考えられる. そのため, 本種は自然飛来と考えられる.

また, 大雨覆や初列風切には幼羽は認められないことから成鳥と思われる.

本種は日本鳥類目録改訂第8版 (日本鳥学会 2024) の本編 (Part A) に記載がない. ただし, 「検討中の種・亜種」の中に「*C. p. tschebaiewi* ムナグロノゴマ」が掲載されている. これは「日本の離島の野鳥①飛島」(亀谷・築川 2021) にすでに収載されているためであり, そこに掲載されている写真は本種と同一個体である. このことから, 本個体が日本初記録と思われる.

また, 従来は *C. pectoralis* に対して「ムナグ

ロノゴマ」という和名が用いられていたが (山階 1986), 分割後の *C. pectoralis* は日本で記録がないこと, 新しい和名をやみくもにつけるべきではないことから, 本稿では分割前の *C. pectoralis* に当てられていた和名ムナグロノゴマを *C. tschebaiewi* に対して用いることを提案する.

引用文献

- Clement, P. & Rose, C. 2015. Robins and Chats. Christopher Helm, London.
- Gill, F., Donsker, D. & Rasmussen, P. (eds.) 2020. IOC World Bird List (v10.1). doi: 10.14344/IOC.ML.10.1.
- 亀谷辰朗・築川堅治. 2021. 日本の離島の野鳥①飛島. わたりがらす出版, 藤沢.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版 日本の野鳥650. 平凡社, 東京.
- 日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録改訂 第8版. p.474. 日本鳥学会, 東京.
- 高野伸二. 2015. フィールドガイド 日本の野鳥 増補改訂新版. 日本野鳥の会, 東京.
- 山階芳麿. 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林, 東京.

The first record of *Calliope tschebaiewi* in Japan from Tobishima Island, Sakata City,
Yamagata Prefecture

Kenji Yanagawa* & Minoru Hoshino

Yamagata Branch of Wild Bird Society of Japan.

On 18 May 2017, a male *Calliope tschebaiewi* was observed on Tobishima Island, Sakata City, Yamagata Prefecture, Japan. Previously, four subspecies were recognized within *C. pectoralis*, however in recent years, *C. p. tschebaiewi* has been elevated to species status as *C. tschebaiewi*, for which the Japanese name 'Munaguro-nogoma' is used. This report constitutes the first official record of this species in Japan. The individual is considered to have been a vagrant that reached Tobishima island during migration, possibly as a result of adverse weather conditions.

Keywords : *Calliope tschebaiewi*, *the first record*, *Tobishima Island*

*: tobishimantyu87@nifty.com